

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果について

平成26年4月22日 実施

1 教科に関する調査結果

	国語A	国語B	算数A	算数B
伊勢山小	71.1	58.9	79.1	64.6
神奈川県	71.3	54.6	76.9	58.6
全 国	72.9	55.5	78.1	58.2

2 全国の正答率と比較して

国語

	よい状況	課題と考えられる状況
国語A (主として知識)	物語の登場人物の相互関係を捉える	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く
国語B (主として活用)	目的に応じて、話合いの観点を整理する	二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える

算数

	よい状況	課題と考えられる状況
算数A (主として知識)	立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解している	異分母の分数の加法の計算をすることができる
算数B (主として活用)	10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択することができる	示された場面から計算の結果の見通しをもち、(2位数)×(1位数)の筆算をすることができる

3 生活習慣・学習習慣（質問紙調査結果）

	項 目	伊勢山小	全 国
よ い 状 況	朝食を毎日食べている	98.1	96.0
	学校に行くのは楽しいと思う	90.6	86.6
	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	73.4	62.9
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	98.1	96.4
	人の役に立つ人間になりたいと思う	96.2	94.0
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	69.8	79.2
	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる	86.8	91.7
	将来の夢や目標を持っている	77.4	86.7
	読書は好きですか	62.3	73.0
	新聞を読んでいる	22.6	27.1

○朝食をしっかりととれている児童の割合は全国平均より高いが、規則的な生活習慣に課題がある。

○学校が楽しいと感じている児童の割合は全国平均より高い。

○いじめについての認識や人の役に立ちたいと考えている児童の割合は全国平均より高い。

○将来についての夢や目標をもつことに課題がある。

○地域や社会で起こっている問題や出来事に対しての関心が全国平均より高いが、新聞を読んだり、読書をしたり活字に触れることに課題がある。

4 今後の指導の方向性

質問紙調査結果から、児童は学校生活を楽しんでいる。きまりを守り、人の役に立ちたいという正義感が育っている一方、将来についての目標を見いだすことが苦手で、自分の良さを認める自己肯定感や有用感に課題があることがわかってきた。

そこで、体験をもとに必要感や切実感のある学習の充実に努め、それを言語活動と結び付けていく授業に積極的に取り組んでいく必要があると考える。



「体験」と「言語活動」の充実

○「覚えただけ」「体験しただけ」ではなく、覚えたことを体験を通して確実に身に付ける学習の充実

○体験と言語活動の充実

授業の中で体験的な活動を重視するとともに、言語活動（説明、報告、記録、対話、討論など）を意識して取り入れることにより、自分の考えを表現したり、互いの考えや思いが交流したりする授業を行う。

○基礎・基本の定着

朝学習等を活用して読書習慣を身に付け情操を育む。またチャレンジタイムを活用することにより学習の基礎・基本の定着を図れるよう計画的に学習を進めていく。

○家庭学習の充実

低学年30分、中学年45分、高学年60分の家庭学習の時間を確保できるよう家庭と連携し、確かな学力が身に付くよう努める。

○教師の研修・研究会の充実

日々の授業を「楽しく分かりやすくなる」ように改善するため、授業研究を充実させ、子どもたちが意欲的に授業に取り組めるよう工夫していく。

ノート指導や発問指示、板書事項、ICT活用などを通して授業改善に取り組む。